



年頭のごあいさつ

新年あけましておめでとうございませう。御家族様ともども健康やかな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平成27年は十二支では乙未(きのとひつじ)年であり、羊は群をなして行動するため、家族の安泰や平安をもたらすとされ、また、羊の大きいのは「美しい」ですし、羊の心は「恙無い」として無病息災、無事を表していると言われています。

十干十二支は、60年で一巡して還暦となりますが、十干を「き・ひ・つ・か・み」と覚えておいて、それに陽と陰を表す「兄(え)」「弟(と)」を組み合わせて干支(えと)と称すると言われています。表にすると次のようになります。

甲(こう)	木の兄	きのえ	平成26年	甲午	きのえうま
乙(おつ)	木の弟	きのと	平成27年	乙未	きのとひつじ
丙(へい)	火の兄	ひのえ	平成28年	丙申	ひのえさる
丁(てい)	火の弟	ひのと	平成29年	丁酉	ひのととり
戊(ぼ)	土の兄	つちのえ	平成30年	戊戌	つちのえいぬ
己(き)	土の弟	つちのと	平成31年	己亥	つちのとい
庚(こう)	金の兄	かのえ	平成32年	庚子	かのえね
辛(しん)	金の弟	かのと	平成33年	辛丑	かのとうし
壬(じん)	水の兄	みずのえ	平成34年	壬寅	みずのえとら
癸(き)	水の弟	みずのと	平成35年	癸卯	みずのとう
			平成36年	甲辰	きのえたつ
			平成37年	乙巳	きのとみ

夕鶴の里資料館報
平成27年1月20日
第49号
発行 夕鶴の里
Tel 47-5800

ところで、民話にも「十二支ばなし」というのがあり、民話会ゆうづるの島貫貞子さんから多くの来館者に語って頂き喜ばれており、悠久の昔に思いを馳せることができ、心なごむ気分になることが出来ます。

しかしその一方で、急速に進化する核家族化や科学技術の飛躍的な進歩、社会経済情勢の変化と相まって地域社会が大きく変貌し、心の豊かさや家族でのやすらぎ、隣人や地域との交流が少しずつ薄れてきているように思われます。

平成27年の未年(ひつじどし)を契機として、地域に語り継がれた民話をはじめ、地域に伝わる行事や伝統文化に触れ、地域の生い立ちや歴史を振り返りながらふるさとを改めて思い起こしてみたいかがでしょうか。

伝承されてきた行事や伝統を失うことは、一つの「文化」が消え去ることを意味するのではないかと思います。

民話の奥深さと魅力、心の豊かさを育む口承文化を多くの皆様に伝えていけるよう心を新たにしておきたいと思っておりますので、夕鶴の里へのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



夕鶴の里館長
高橋 大吉

無断駐車 ご遠慮ください

雪で駐車場が狭くなっております。無断駐車の方があつたために、お客様・貸館の来館者の方にご不便をおかけする事がありました。除雪の妨げにもなっております。駐車場を使用の際は、夕鶴の里にご連絡くださいますようお願い致します。

【0238-47-5800】



年末大掃除!

昨年12月末、恒例の調理室の大掃除を行いました!職員総出でコンロや水周りを磨き、ピカピカ綺麗になりました♪

調理室だけではなく、夕鶴の里の施設は、地域の皆様にご利用頂いております。他の利用者の方のためにも、綺麗にお使いください。よろしくお願いいたします。

民話会ゆうづる 会員紹介

今回は、民話会ゆうづる会員、大竹和子さんをご紹介します。

Q、民話会ゆうづる会員となったのはいつごろですか？またそのきっかけは？

A、大竹 平成25年です。これといったきっかけはなく「民話会ゆうづるに入ってー！」と勧誘されたのと、母親の思いが寄り添ったので入会しました。

Q、語り部とられて良かった事はありますか？

A、大竹 入会してまだ日は浅いですが、たくさんの方々とお話することが、たくさんの方々とふれあえた事です。

Q、語り部として一番嬉しかったことをあげるとしたら？

A、大竹 聞きに来てくださった方から「あー、とつてもいいがった」と言ってくれて聞いてくださった事が、私としては一番です。

Q、昔話(民話)とは、大竹さんにとつてなんですか？

A、大竹 幼い頃、母親に話してもらった思い出が昔話になっています。

Q、最後に、これからの事や今思っていること。何でも…。

A、大竹 昔話についてむずかしいと思っていますが、前向きに考えて自分なりの語りを、聞いてくださる方に大切に語りをしていきたいと思っています。



大竹 和子 さん

漆山地区 地名伝説集

〈磁石の効かない山と 与蔵の湯〉

むかーしの話しだけんどなあ。俺だが、まだめっちゃこい頃(小さい頃)に爺さまに聞いたことだげんどな。お羽黒山の後ろの天頂山にな、一あの山にはよ、昔から一カ所磁石の方向が狂って、北の方指さない所あるんだそう。ま

だ、誰も見つけた人がいないんだ。何でも、宝物が埋まっているとゆう話しが伝わっているな。で、お前だ大つきくなつたら、捜して掘ってみろ」とよく言われたもんだ。

その山の下の、昔は谷になってでな、明治三十五年の春の大風で、お羽黒山の神社、吹っ飛んできたんだ。そんなときはまだこの堤がなかったんだ。その上の山が、天頂山でな、その山の真ん中頃に古い鉱山の穴まで続いているなんて言つたもんだ。俺だめちやこい頃中に入つてみると五メートル位しかなかったな。昔、鉛を掘つたと伝えられているけど、鉱石らしいものは何にもなくて、水がポタンポタンと天井から落ちてきて、コウモリがいっぱいぶら下がつていたつな。

その山の下に、昭和館で言うお湯屋があつた、その爺さま、与蔵で言う名前なので、みんな「与蔵湯」と呼んでいたなよ。その与蔵じいあホラの貝をホーポーと鳴らしたもので、ホラ貝はお湯が沸いたぞーと言う合図でな、山の下の人たちあ、子供らの皮膚病に効くなどと、お湯さ入りに行つたもんだ。このお湯、戦に負けでからもあつたげんど、爺が死んでからはなくなつたのよ。また、四ツ谷の橋の所にも、「半田館」があつた、ここでも鉱山の穴から水を引いて、沸かし湯と料理屋やつたところあつたげんど、ここは、早くに無くなつてしまつたなよ。

とーびんと

地名伝説担当編集
おりはたのりづくり
推進会議



あしらせ

★語り部の館の貸館について

・鍵の仕様が変わりましたので、鍵の貸出の際に、使い方を必ず確認してください。

・電気の消し忘れがありました。帰る前の確認をお願い致します。

・角卓などを使用する際にも、あらかじめご連絡ください。